



令和7年6月12日



チームたかとく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -0612分校職員会議資料④-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上松 武

## ■皆さんは、白嶺分校がここにある存在意義をどう考えていますか

- ・当校がこの地域にある意義は何でしょうか。
- ・教育計画にある設立の経緯や先人の想いなどを受け継ぎながらも、今もここにこの学校がある存在意義をどう考えていますか。
- ・当校は次のような県内の特別支援学校と異なる特徴があると、私は考えています。
  - 高等学校と隣接した、高等部のみの特別支援学校である。
  - 毎年度の入学生徒数は6～10名程度と大きな変動がなく、少人数での指導が行いやすい。
  - 入学生徒のほとんどは糸魚川市内の中学校及び特別支援学校の卒業生である。
  - 市街地の中心部に学校があり、教育や福祉行政機関や福祉事業所が身近に感じられる範囲にある。
  - 糸魚川駅が間近にあり、交通のアクセスは不便ではない。
- ・設立経緯や先人の想い、そして当校の特徴から、白嶺分校の存在意義を次のように考えています。

誰もが分け隔てられることなく、自分のできることを生かして人の役に立ちながら、自分らしく人生を送ることができる「まち」になることを牽引するための学校である。

- ・なぜ、このようなことを皆さんに問うのか。それは、次のことをこの学校の生徒と先生方、そして地域の方々に感じたからです。
  - ①この学校の生徒が秘めている可能性が大きいと思えたから。
  - ②生徒の可能性がこのまちで開花させられるのではないかと考えたから。
  - ③いろいろなことに挑戦できる「まち」だと思えたから。
- ・他と異なる特徴のある当校に勤務することを通して、一人一人が何を目指して日々の業務に励むのかを明確にしてほしい。そして、このようなことを今よりも少しだけ意識して、生徒と向き合ってほしい。そう思うからです。
- ・さらに、この学校の存在意義を考えることは、真に私たちがやらなければならないことに眼を向けることにもなると考えます。「これまでそうやってきたけど、それって本当に必要なのか」と疑ってみませんか。そして、今一度、「この学校の役割は何か」「私たち職員は何を優先するべきなのか」「教育活動を通して、この学校は何を目指すのか」を、改めて考えてみませんか。
- ・私は、白嶺分校を今よりも地域に必要とされる学校にしていきたいと思っています。「この学校に入ってよかった」と卒業してほしいし、そういう声を聴きたい。そんな学校づくりを先生方全員とやっていきたいと考えています。ぜひ、一緒に取り組んでいきましょう。

## ■「学校づくりは、まちづくり」に欠かせない取組

### □地域・企業向け学校見学会①

# 生徒の学習に熱視線

## 地域企業向け学校見学会

高田特別支援学校  
白嶺分校

県立高田特別支援学校白嶺分校（上松武校長、生徒22人）は16日、糸魚川市清崎の同校で地域企業向け学校見学会を開いた。

同校の教育課程や施設、生徒の学習への取り組みについて理解を得る機会にと、定期的に実施している。今回は市内外の事業所や行政関係者ら約25人が参

加。授業参観で生徒たちの作業学習の様子を見て回り、教職員から同校の学校概要について説明を受けた。授業参観では、さそり織りやビーズ組工など「手芸班」、封筒作りの「クラフト班」、農作業や部品の袋詰めを行う「組立・農業班」それぞれの作業の様子を見学。各班の生徒た

ちの取り組みについて、熱心に見聞きました。市内の放課後等デイサービス事業所に勤めている女性（39）は「（生徒）一人一人の能力を発揮できるようにと教育されていると改めて感じました、生徒たちもそれに心酔している」と話した。



「手芸班」の生徒たちの作業学習の様子を見学する参加者たち

- ・ 5月16日（金）に今年度最初となる「地域・企業向け学校見学会」が開催され、糸魚川市内の事業所や福祉行政機関の方々など約25名が見学にお越しくださいました。当日は、上越タイムスの取材もありました。
- ・ 正直なところ、もっと大勢の方から関心を持ってもらいたいと思いました。
- ・ そのために何をするか。
- ・ 私は、生徒が学校外で学ぶ学習を少しずつ増やしていき、生徒と地域の方が関わる機会を作ることだと考えます。
- ・ 皆さんはどう考えますか。

### □職場実習

- ・ 5月19日から6月6日までの校内・職場実習、大変お疲れさまでした。
- ・ 私も2日にわたって、数か所見学してきました。どこへ伺っても、生徒のよいところを見つけてほめてくださいます。

←上越タイムス（R7.5.22）

- ・ 例えば、次のようなこととお話してくださいました。
  - －指摘された間違いを修正できる。自分から間違ったことにも気付ける。
  - －あいさつがとてもいい。
  - －作業台を丁寧に拭くことができる。
  - －「だいたい」ではなく「測るといい」ことを教えられた。
  - －時計を見て休憩したり、仕事を再開している。
  - －生徒に合った支援具や手立てを考えられている。
- ・ 機会があれば、実習先で聴いた話を生徒に伝えたいと思いますし、壮行会で話した3つのことにどう取り組んだのか聞いてみたいと思います。

①何事にも一生懸命に取り組む

②毎日決めた生活リズムで実習をやり切る

③実習を通して、「自分のよいところ」や「自分で自分の好きなおところ」を見つける

# 障がい者の働く場を広げたい

民間企業で障がい者の雇用は進んでいるのか。障がいのある子どもを持つ親たちが見附市で企業見学会を開き、意見交換しながら模索を続けている。従業員に占める障がい者の割合を定めた国の法定雇用率が引き上げられる中、「選択肢を広げたい」との願いを込めた取り組みだ。(井上直)

8日、見附市のニット製造会社「第一ニットマケイニング」の工場。障がい児の親のほか、企業の人事担当者や特別支援学校の進路指導主任、市担当者ら9人が見学に訪れた。

作業場では女性3人がそれぞれ机に向かい、くしの歯のような細かい突起が並ぶ棒状の器具に、手作業で毛糸をはきみ込んでいる。

同社は2013年から障がい者を雇用。現在は従業員約180人のうち20代と50代の男女6人に知的障がいや精神障がいがある。作業場の女性3人のうち1人にも知的障がいがあるという。山田利明工場長は「仕事は正確で、ごまかま指示しなくてもいいくらい」と話す。

同社従業員で知的障がいのある女性2名は取材に対し、「今の暮らしに満足している」と話す。フルタイムで働き、福祉施設の寮がある隣の長岡市から電車通勤する。働

## 見附の団体 企業見学会開催 保護者ら参加



ニット製造工場での作業の様子を見学する障がい児の親たち(いずれも8日、見附市)

き始めて7年。休憩時間に工場入り口の階段に座ってゲームをするのが息抜きだ。参加者らは工場見学後、意見交換を行った。参加者から「周囲が配慮していることはあるか」との質問があり、山田工場長は「大きな音が駄目だなど、それぞれの特性に合わせた情報を教えてもらえば共有する」などと応じた。

また、複数の企業担当者からは「その人が入って仕事の流れがどうなるかを考えてほしい」といった、障がい者を雇うに当たっての懸念の声もあがった。これに対し、障がい児の母親からは「企業と障がい者の橋渡しをする人がもっといれば良いのでは」との提案があった。

## 意見交換し模索 特性共有と橋渡し役が必要



障がい児の親や企業の人事担当者、特別支援学校の進路指導主任らによる意見交換の様子

「障がいがある人の地域生活研究会」。見附市内で障がいがある人が安心して暮らす「あたりまえの生活」が送れるよう、障がい児の親や支援者ら様々な立場の人が情報共有している。

だ、特別支援学校の教員数は限られ、就職希望の障がい者の特性と企業のニーズをマッチする橋渡し役は不足しているのが現状だ。会では、こうした課題について雇用側とともに考えようと、24年に企業見学会を初めて実施。今回は2回目で、今後も続ける方針だ。

### 法定雇用率 県内達成55.2%

障がい者雇用促進法は、企業や国、自治体などに對して雇用する労働者の一定割合の障がい者を雇うよう義務付けている。現在の法定雇用率は民間企業が2.5%。県内の達成企業の割合は55.2%。2024年と全国平均の46.0%を上回り、都道府県別では青川県と並んで18位となっている。新潟労働局によれば、雇用義務は40人以上を雇う企業に課せられる。県内2182社のうち102

04社が達成し、障がい者8000人が雇用されている。雇用数は前年より4.5%増加し、19年連続で過去最高を更新している。障がい者の雇用は一定程度進んでいるが、求められる法定雇用率は徐々に引き上げられており、達成企業の割合は23年(60.5%)より5.3%減っている。法定雇用率は来7月に2.7%に引き上げる予定で、企業はさらなる対応が求められている。

- ・令和7年5月25日の朝日新聞朝刊の記事です。見附市で2023年に立ち上がった「障害のある人の地域生活研究会」が開いた企業見学会のことが書かれています。
- ・この研究会の代表は重度の障害がある17歳の娘をもつお母さん。この見学会を「障がい理解が広がる場にしたい」と話しています。糸魚川市でもできるのではないのでしょうか。

## ■成長の伝え方～前期個別の指導計画の評価の参考に～

個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成していただいています。少し気が早いですが、評価について参考になればと思い書きました。

### ①伝わりやすい評価の書き方

- ・下のア～エの順で評価を書くと読みやすく分かりやすい内容になるのではないのでしょうか。
- ・この順を追った記載は、私たちが授業を考えるときの順序になると思います。

- ア どんな学習に取り組んだのか。
- イ その学習活動に私たち教師はどのように取り組ませたのか。
- ウ 子どもが取り組んだ結果、何を身に付けたのか。どう変容したのか。何ができるようになったのか。
- エ 身に付けたことを他の場面で活用する姿はあったのか。

## ②評価の3観点を意識した書き方

- ・評価の3観点を意識して記載しましょう。職員会議の資料にもありましたが、私たちが実践している授業を通して、評価の3観点を次のように考えてみてください。

**□知識・技能**：例えば、算数の計算方法だけ、漢字の読み書きだけを覚えるのではありません。なぜその計算方法で正しく答えが出るのか、この漢字は他にどのような使い方があるのかなど理解を伴った知識や技能であるか評価してみてください。

**□思考・判断・表現**：単に知識・技能を身に付けているだけでなく、基礎的な知識・技能をうまく活用しながら、さらにその先を自分なりに考え、考えたことを分かりやすく人に伝えることや、それらを使ってプラスアルファの自分なりの考えで行動することなどの点から評価してみましょう。

**□主体的に学習に取り組む態度**：「今日はプリントを3枚がんばった」「問題に20分集中して取り組んだ」「跳び箱5段を何度も挑戦し跳べるようになった」などは大切な主体的に取り組む態度です。さらに、違う取り組み方や挑戦の方法を考えて実践したかどうか大切な視点となります。

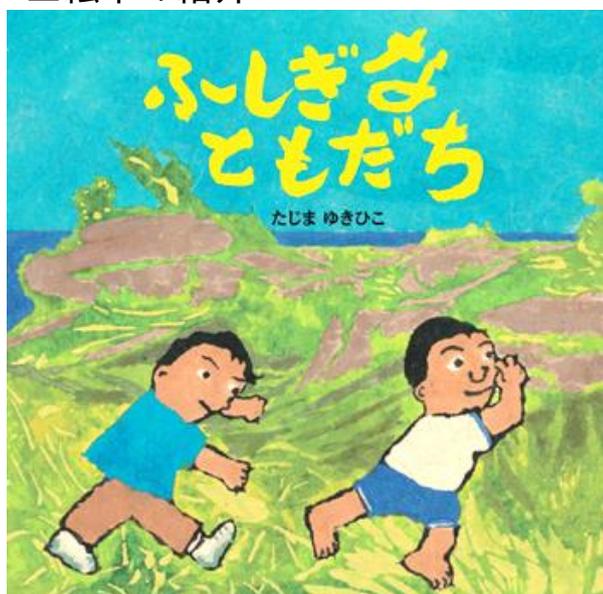
- ・記載例を下の表に示しましたので、評価作成時の参考にしてください。

作業学習	算数数学	図画工作	体育	特別活動
<u>折り目を手がかりに牛乳パックを切ることが上達した。繰り返すことで切り方のコツを覚え、30分間で60個切ることができた。新製品にも意欲的に取り組んだ。</u>	広告から買う物を選び、設定金額内で買う学習をした。電卓を使って計算し、設定金額を超えることなく、品物を選ぶことができた。	はさみの扱いが上達した。線をよく見てはさみを動かし、ハートや星の形を切り抜いた。紙の持ち方を工夫して、余白部分を切り整える仕上げもできた。	1300mの持久走では、自分で目標記録を設定し、毎時間、意識して取り組んだ。最後まで自分のペースで走り続け、当日はベストタイムを更新した。	給食当番では盛り付けと配膳を担当した。主菜をこぼさないようにトングの持ち方に気を付けて盛り付けをしたり、汁物をこぼさないように配膳できた。

- ・作業学習の評価では、3観定のどれに当たるのかも示しました。

知識・技能：太線      思考・判断・表現：波線      主体的に学習に取り組む態度：二重線

## ■絵本の紹介



『ふしぎなともだち』 作：たじま ゆきひこ  
あらすじ

この絵本の「ぼく」と「やっくん」にはモデルがいます。絵本作家たじまゆきひこさんが、淡路島の自閉症の青年とその同級生に取材を重ね4年の歳月をかけて絵本にしました。「じごくのそうべえ」シリーズを始め、数々の絵本を作ってきたたじまさんが描く、ふたりの少年の友情の物語。

自閉症のやっくと「ぼく」だけの話ではない、普遍的な人間の心の交流があります。障がいの有無をこえ、「共に育ち、共に生きる」ことを描いた絵本。  
(「絵本ナビ」ホームページより引用)